



2020年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年7月15日

上場会社名 バリュエンスホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9270 URL https://www.valuence.inc/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寄本 晋輔
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 佐藤 慎一郎 (TEL) 03-4580-9983
 四半期報告書提出予定日 2020年7月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年8月期第3四半期の連結業績(2019年9月1日~2020年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第3四半期	25,242	△8.3	△315	—	△368	—	△585	—
2019年8月期第3四半期	27,538	19.3	1,537	5.4	1,537	10.1	1,015	6.0

(注) 包括利益 2020年8月期第3四半期 △581百万円(—%) 2019年8月期第3四半期 1,012百万円(5.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第3四半期	△45.25	—
2019年8月期第3四半期	83.93	76.94

(注) 1. 当社は、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 2020年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第3四半期	16,841	5,832	34.6
2019年8月期	14,111	6,695	47.4

(参考) 自己資本 2020年8月期第3四半期 5,832百万円 2019年8月期 6,695百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2020年8月期	—	0.00	—	—	—
2020年8月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2019年8月期の配当金については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2020年8月期の期末配当につきましては、現在未定であります。

3. 2020年8月期の連結業績予想(2019年9月1日~2020年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 現時点において業績予想の算定が困難であることから、引き続き未定とさせていただきます。通期の連結業績予想につきましては、合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年8月期3Q	13,148,450株	2019年8月期	12,747,860株
② 期末自己株式数	2020年8月期3Q	40,430株	2019年8月期	21,612株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年8月期3Q	12,947,354株	2019年8月期3Q	12,104,985株

(注) 当社は、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項などについては、添付資料3ページ「1.（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調にあったものの、消費税増税や通商問題をめぐる世界経済の動向などに加え、当第3四半期連結会計期間においては特に、新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、国内においても緊急事態宣言が発令され景気が急速に悪化いたしました。先行きについても引き続き厳しい状況が続くものと見込まれております。

このような環境の下、当社グループにおいても新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、第二波の発生も視野に対策を推し進めてまいりました。

まず、買取においては、緊急事態宣言の発令により、4月・5月は商業施設内店舗を中心に多くの買取店舗（商品を買入れる店舗。以下同。）が休業となり、ブランド品等のメイン商材を取扱う「なんぼや」「BRAND CONCIER」は稼働店舗が合計で14店舗にまで縮小いたしました。さらに、外出自粛の影響もあり店舗当たりの来店客数、仕入高にも減少が見られました。一方で、法人買取の強化やビデオ通話を活用したオンライン買取「Quick Sell」を開始するなど、コロナ禍における顧客の資金化ニーズに対応するとともに、仕入機会の創出のための取組みも進めてまいりました。

販売においては、国内の「STAR BUYERS AUCTION（スターバイヤーズオークション、以下SBAという。）」について、当初予定を大幅に前倒しし2020年4月にリアルオークションからオンラインオークションへと完全移行いたしました。当初計画では徐々にオンライン比率を高めながら移行する予定であったところを一気にオンライン化したため、出品点数をコントロールし小規模開催からスタートしたこと、買取店舗休業に伴う仕入の減少があったこと等により、通常時に比べ準備高・出来高が小さくはあるものの、開催中止を避け収益の確保に貢献いたしました。また、プラットフォームとしての規模拡大を目指し、他社からの委託出品の受付も開始いたしました。SBA香港については、当第3四半期連結累計期間における開催はダイヤモンドオークションとジュエリーオークションを2回ずつ（2019年9月・11月）実施しましたが、香港デモと新型コロナウイルス感染症の影響による延期が続いており、現時点で次回開催は7月と8月に予定しております。「THE EIGHT AUCTION（エイトオークション）」については毎月開催していたところ3月以降開催を中止しておりますが、7月のオンライン化に向け開発を進めてまいりました。小売については、4月・5月の店舗休業による影響が大きかったものの、自社ECサイトや越境ECモールなどでの販売を継続し売上確保に努めてまいりました。

一方、このように厳しい状況ではあったものの、アフターコロナを見据えた事業拡大に向けた取組みの手は止めず、引き続き国内において百貨店や駅近の商業施設を中心に買取店舗の出店を進めてまいりました。主にブランド品や貴金属等を買入れる「なんぼや」は新規出店11店舗、移転1店舗、「BRAND CONCIER（ブランドコンシェル）」は新規出店1店舗を実施し、骨董品・美術品の買取店舗「古美術八光堂」は新規出店1店舗を実施いたしました。買取セクション全体の集客・運営効率化を図るため退店も実施し、当第3四半期連結会計期間末における買取店舗数はグループ全体で83店舗となりました。

所持品の実物資産としての管理・運用を提案する資産管理アプリ「Miney（マイニー）」については、顧客一人ひとりにおけるライフタイムバリュー向上の取組みの一環として、絵画、骨董・美術品、不動産のジャンル拡充を行い、時計、バッグ、ブランドジュエリー、アクセサリ・小物と共に資産としての管理を可能にしたほか、一部商材にAI自動査定を導入するなど利便性向上にも努めてまいりました。

費用面においては、新型コロナウイルスの影響を受け厳しい局面ではありましたが、仕入量拡大のための買取店舗の新規出店や海外展開の加速、オークションのオンラインプラットフォーム構築をはじめとしたシステム開発など、成長のための投資を継続したため、これらの費用は増加いたしました。また、企業価値向上へのモチベーションアップのため2019年8月期に実施したグループ従業員への譲渡制限付株式報酬の割当に係る当第3四半期連結累計期間分の費用、持株会社体制移行や社名変更に伴う費用も発生しております。広告宣伝費用については集客増大を企図し1月・2月に一時的に増加させましたが、その後は稼働店舗数に応じ費用を縮小しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は25,242,427千円（前年同期比8.3%減）、営業損失は315,681千円（前年同期は1,537,195千円の営業利益）、経常損失は368,083千円（前年同期は1,537,278千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は585,853千円（前年同期は1,015,931千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

なお、当社グループは「ブランド品、骨董・美術品等リユース事業」の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、売掛金の減少239,472千円があった一方、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、運転資金及び仕入資金確保のための借入実施による現金及び預金の増加1,744,272千円や、自社オークションの小規模開催、延期及び中止に伴う商品の増加1,174,302千円があったこと等により、前連結会計年度末に比べて2,935,266千円増加し、12,809,522千円となりました。固定資産は、買取店舗の新規出店に伴う建物及び構築物（純額）の増加63,650千円があった一方、のれんの減少110,752千円があったこと等により、前連結会計年度末に比べ205,819千円減少し、4,031,720千円となりました。これらの結果、総資産は前連結会計年度末に比べ2,729,447千円増加し、16,841,242千円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、1年内償還予定の社債の減少160,000千円や未払法人税等の減少562,255千円があった一方、新型コロナウイルス感染症の影響による売上収入減少を補い会社運営及び商品仕入を安定化するための短期借入金の増加4,497,092千円があったこと等により、前連結会計年度末に比べ3,735,676千円増加し、9,975,088千円となりました。固定負債は、長期借入金の減少179,316千円等により、前連結会計年度末に比べ143,636千円減少し、1,033,297千円となりました。これらの結果、負債額は、前連結会計年度末に比べ3,592,040千円増加し、11,008,385千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産額は、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ82,072千円増加した一方で、利益剰余金の減少1,031,272千円があったこと等により、前連結会計年度末に比べて862,593千円減少し、5,832,857千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年8月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が当社グループの業績に与える影響の正確な把握が困難なため、2019年10月15日に公表した数値を、2020年4月14日に取り下げ未定としております。

販売面において、自社オークションのオンライン化を前倒しし、新型コロナウイルス感染症の影響下においても収益確保が可能な体制を整えており、仕入面においても、緊急事態宣言の解除に伴い一部休業や時短営業となっていた買取店舗が通常営業に戻っております。一方で、第二波、第三波への懸念が残っており、仕入高は回復基調にはあるものの、その動向の正確な予測が困難な状況が続いております。

これらのことから連結業績予想につきましては引き続き未定とさせていただきます、合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,103,508	5,847,781
売掛金	346,011	106,538
商品	4,863,395	6,037,697
その他	766,581	951,752
貸倒引当金	△205,240	△134,247
流動資産合計	9,874,255	12,809,522
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,617,327	1,680,977
その他(純額)	310,866	296,384
有形固定資産合計	1,928,194	1,977,362
無形固定資産		
のれん	367,101	256,348
その他	220,113	274,264
無形固定資産合計	587,214	530,613
投資その他の資産		
差入保証金	1,084,640	1,080,099
その他	640,157	444,180
貸倒引当金	△2,667	△535
投資その他の資産合計	1,722,131	1,523,744
固定資産合計	4,237,540	4,031,720
資産合計	14,111,795	16,841,242

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,205	34,933
短期借入金	4,440,000	8,937,092
1年内償還予定の社債	160,000	—
1年内返済予定の長期借入金	254,088	239,088
未払法人税等	607,496	45,240
賞与引当金	191,575	296,970
資産除去債務	14,577	980
その他	552,468	420,783
流動負債合計	6,239,411	9,975,088
固定負債		
長期借入金	572,518	393,202
役員退職慰労引当金	63,746	63,975
資産除去債務	537,965	576,120
その他	2,703	—
固定負債合計	1,176,933	1,033,297
負債合計	7,416,344	11,008,385
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,027,507	1,109,579
資本剰余金	1,015,284	1,097,357
利益剰余金	4,721,656	3,690,384
自己株式	△59,783	△59,830
株主資本合計	6,704,665	5,837,490
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△9,214	△4,633
その他の包括利益累計額合計	△9,214	△4,633
純資産合計	6,695,450	5,832,857
負債純資産合計	14,111,795	16,841,242

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年5月31日)
売上高	27,538,531	25,242,427
売上原価	20,464,197	19,198,390
売上総利益	7,074,333	6,044,036
販売費及び一般管理費	5,537,137	6,359,717
営業利益又は営業損失(△)	1,537,195	△315,681
営業外収益		
受取利息	60	59
為替差益	30,666	—
業務受託料	4,777	3,675
受取賃貸料	2,838	6,463
その他	8,815	9,521
営業外収益合計	47,158	19,719
営業外費用		
支払利息	23,197	26,763
支払手数料	10,205	1,220
為替差損	—	8,526
株式報酬費用消滅損	—	28,132
その他	13,672	7,479
営業外費用合計	47,076	72,122
経常利益又は経常損失(△)	1,537,278	△368,083
特別損失		
減損損失	7,498	20,530
特別損失合計	7,498	20,530
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,529,780	△388,614
法人税、住民税及び事業税	531,668	225,762
法人税等調整額	△17,819	△28,523
法人税等合計	513,849	197,239
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,015,931	△585,853
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,015,931	△585,853

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,015,931	△585,853
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△3,724	4,580
その他の包括利益合計	△3,724	4,580
四半期包括利益	1,012,207	△581,272
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,012,207	△581,272

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、新たに設立したバリュエンステクノロジーズ株式会社及びバリュエンスジャパン株式会社を連結の範囲に含めております。

加えて、第1四半期連結会計期間に設立したValuence International USA Limitedについて、第2四半期連結会計期間に出資が完了したため、連結の範囲に含めております。

また、当第3四半期連結会計期間より、新たに設立したバリュエンスリアルエステート株式会社及びValuence International Europe S.A.S.を連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

前第3四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「業務受託料」及び「受取賃貸料」は、金額的重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間から区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、営業外収益の「その他」に表示しておりました7,615千円は、「業務受託料」4,777千円、「受取賃貸料」2,838千円として組み替えております。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、4月・5月は商業施設内店舗を中心に多くの買取店舗が休業となりました。特に4月18日から5月6日の期間においては、全81店舗中59店舗で休業となり、「なんぼや」「BRAND CONCIER」で14店舗、「古美術八光堂」で8店舗にまで稼働店舗が縮小いたしましたが、6月以降は全店舗の営業を再開しております。

当社は、5月26日に全都道府県において緊急事態宣言が解除され、経済活動が再開したことに伴い、6月以降の業績が回復し、2021年8月期中を目途に新型コロナウイルス感染拡大前の状況に戻ると仮定して、たな卸資産の評価、固定資産の減損会計及び繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

なお、この仮定は変わる可能性があり、収束が遅延し、影響が長期化した場合には将来において損失が発生する可能性があります。